

受講番号 18037 学校名 高知海洋高等学校 氏名 渡邊 理子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年A組(出席番号前半) 生徒数 17名
 科目名 英語 単位数(授業時数) 3時間 使用教科書名 DAILY ENGLISH COURSE

クラスの様子・特徴

本校生徒は中学校での既習事項が身に付いていないまま入学してくる者が多い。対象クラスの生徒たちも、英語に苦手意識を抱いている生徒が大半であり、学習意欲もなかなか上がらない。いかに授業に集中させ、基本事項を定着させるかが課題である。

問題の確定

音とつづりの結びつきの理解不足、圧倒的な練習量の不足などから、基本的語彙・文法の知識が身に付いていない。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
<p>まだ中学校の時の気持ちや生活習慣を引きずっている生徒が多く見られ、授業態度にもムラがある。まず授業規律を確立することが大切である。集中力が続かないので、1つの授業時間内に短いスパンで異なった活動を入れていくことが効果的だと思われる。</p>	<p>私自身の授業の評価については、板書が見やすくいいという肯定的な評価と、しゃべる内容が理解できず授業が短く感じられないという否定的な評価があった。生徒自身の自己評価では、熱心に取り組んでいる者と取り組めていない者がほぼ半数ずつだった。</p>	<p>進学協議会による17年度学習支援テスト 平均点23点 校内の前期中間テスト 平均点48点(最高93/最低7) 校内の前期末テスト 平均点38点(最高82/最低6) 校内の後期中間テスト 平均点42点(最高88/最低6)</p>

リサーチ・クエスチョン

学習意欲が低く、基礎的な語彙が不足している生徒たちの語彙力をつけるにはどうしたらよいか。

仮説・実践・検証

仮説1	実践1	検証1
<p>INPUT 興味を持てる活動を取り入れ、その中で楽しみながら語彙に触れさせる。</p>	<p>・英語の歌が好きな生徒が多いので、導入で歌を取り入れた活動を取り入れる。 ・英語のことわざを音読筆写で学ばせる。(30秒で何回書けるか競争させる)</p>	<p>・歌は最初のうちは毎回のように聴かせていたが、騒がしくなってしまう、その後の授業への切り替えに時間を要するため、機会を見ながらたまに入れる程度にした。 ・英語のことわざを書かせる音読筆写には、わりと興味を持って取り組んでいる生徒がいるようなので、書く訓練として続けていきたい。</p>
<p>仮説2 INTRODUCTION 新出単語の導入、覚え方にバリエーションを持たせる。</p>	<p>実践2 ・新出単語はフラッシュカードを用いて、音とつづりの結びつきを説明しながら練習させる。 ・単語の意味を推測させてから答えを与える。 ・新出単語はワークシートに書かせて何回か集めチェックする。単語テストに向けて、発音を聞いて単語を書くという練習を授業の導入で何回か行う。</p>	<p>検証2 ・音を聞いて書かせるという作業は、1レッスンが終わるまで授業の導入で3~4回は行った。その都度ちゃんと書いているか集めてチェックしたので、ほとんどの生徒が真剣に取り組んでいたようだったが、まだまだつづりの定着には及んでいないようである。なかなかつづりの定着には至らないが、単語の読みには注意を払うようになり、読み方を聞きに来たり、自分で進んで読み仮名をふるようになった。</p>
<p>仮説3 TEST 仮説1、2の活動を通して、語彙が定着しつつあるか、小テストを行うことで本人に確認させる。</p>	<p>実践3 1レッスン終わるごとに小テストを実施 単語テスト(つづりと音の結びつきを意識させるために、教師の発音を聞いて、英語でつづる形式で実施。) 音読テスト(1レッスン分の本文を段落で2~3つに区切り、当日はくじ引きで読む段落を決めて読ませた。読み仮名を自分でふって持ち込んだ場合は半分減点。その他、読み間違いや、つまった場合は減点していくという採点方法。)</p>	<p>検証3 ・単語テストは合格点(5割)に満たない者については再テストも行ったが、なかなか点を取れない生徒がいた。何となく音で覚えていても、正確につづることはなかなかできないようである。音読テストは授業時間中に一人一人の発音チェックを行ったり、連取時間も取ったりした上で実施した。ほとんどの生徒が努力しているようだったが、読み仮名をふらなければほとんど読めない生徒も少数いる。</p>

研究の成果

後期は、音声的なアプローチに重点を置き、音を聞いてつづる単語テストや教科書本文の音読テストを行った。また身近なことわざを英語で書いてみるという作業を取り入れるなど、新しいことにチャレンジできてよかった。同じことをしても日によって生徒の反応も様々で、一喜一憂の日々だった。ただ、単語がほとんど読めない生徒でも、テストという動機づけから、自ら進んで読み方を聞きに来たり、読み仮名をふったりするようになった。何度も発音したり聞いたりする中で、多少は英語の音が頭に残っているようだった。まず読める単語が少しでも増えることで、英語を身近に感じてもらったのなら成果はあったと思う。

今後の授業改善の課題

圧倒的にまだまだ練習量が不足していると思う。授業時間内だけでは足りないので、授業時間外で本人がどれだけ努力するかで差がついてしまう。家庭学習を促すように課題も出していこうと思ったが、ほんの数回しか出せなかった。課題も継続して指導していけば定着すると思うので、今後の課題にしたい。また、授業時間内でさえなかなか集中できず、書くことを面倒だと感じる生徒が多いので、彼らにやる気を出させる活動が課題である。